



PDMシステム構築への対応

中堅企業におけるPDMシステムの状況

PDMシステムは設計・生産の最上流の技術情報管理システムとして位置づけられています。そして設計・開発部門におけるセキュリティ対策や内部統制の中核システムとしても、その重要性は一段と無視できないものになっています。

PDMシステムへの関心は中堅企業においても高まり、その適用も徐々に広がっています。しかし、実際の導入検討になるとその機運が萎んでしまうケースも多々見受けられます。その理由は以下の課題に集約されます。

中堅企業における PDM 導入の課題

- ① **コスト面の問題** 2000～3000万円の提案は高過ぎると捉える企業は圧倒的に多い。
- ② **設計部門の負荷の問題** データ整備や登録に設計部門に負荷が掛り過ぎる。
- ③ **運用面の問題** 設計ルールや運用に問題を抱えながらシステム運用が出来るかという疑問。



PDM構築を早期に効率よく稼働させるために

(1) コンサルティングによるベストプラクティスの推進

当社は富士通グループと連携して、最適コンサルティングによるベストプラクティスの推進を目指しています。コンサルタントSEは検討すべき事項と手順、そしてその答えを経験を通じて持っています。コンサルティングの基本方針として、顧客の数多くの要望を順序付けし、まず将来にわたってPDMの土台となるCADのデータ管理を確立させることを最優先にしています。

(2) 習熟度を高めるために特定パッケージソフトへ集中

世の中にはたくさんのPDMパッケージソフトが存在しています。当社では富士通殿のPLEMIAとシーメンス殿のTeamcenterに集中しノウハウの蓄積を図っています。

PLEMIAはCADデータ管理(PLEMIA/EDM)からステップバイステップでシステムを拡張していけること、そして「日経BPコンサルティングによるPDM導入時の重点ポイントアンケート*」で上位にランクされている要件に合致していると判断したためです。*: 使い勝手が良いこと 他ツールソフトとの連携がよいこと 高レスポンス、高機能であること。

Teamcenterについては世界No.1のシェアをもつPDMであり、今後自動車業界を中心に拡大すると判断しています。

(3) オフショア開発体制の推進

PDMシステムのメンテナンスや新規開発の中国オフショア化を北京 Ifmsoft 殿と連携し推進しています。

現在、PDM構築プロジェクトにSE/PGを参画させノウハウ・スキルの修得を始めており、その理由は オフショア化によるコスト削減と 日本企業が日本で構築したPDMシステムを中国に展開する時の現地サポート体制として期待していることによります。北京 Ifmsoft 殿は前身の北京工業大学計算センター時代から日本企業のオフショア開発を事業化してきており、既に10年以上の経験を積んでいます。当社ではその技術力、品質・セキュリティ、生産性などを高く評価をしています。

PDMシステム構築スキーム



詳しくは当社営業へお尋ねください。

お問い合わせは、PLMソリューション事業部(045-470-0035)中井・相原にて承ります。

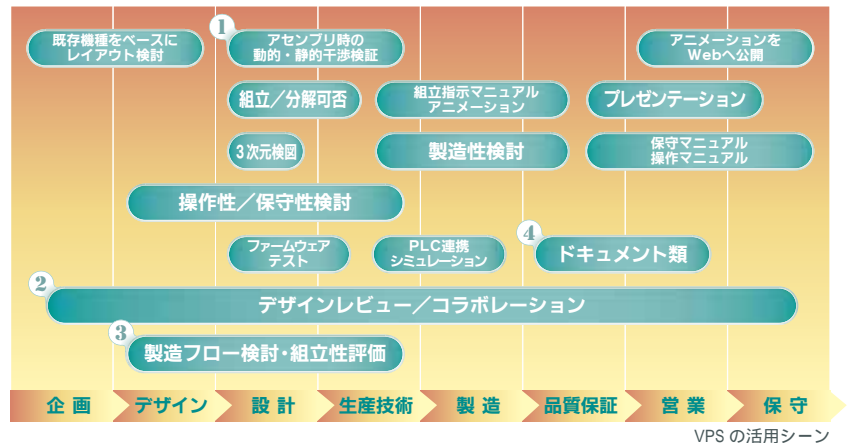
VPS の活用シーンと VPS を用いてのドキュメント作成の効率化

VPS (Virtual Product Simulator) は今までに約3,500ライセンスがユーザーで活用されています。VPSのポイントはモノづくりプロセスの各ステップでのバーチャル検証、バーチャルデータの活用が可能な点です。バーチャル検証の例としては「解析」がありますが、いまや解析の活用なしに開発のQCDを確保することはできません。それと同様にVPSはバーチャル検証のツールとして今後ますます活用が進むものと考えられます。

VPSの特徴

- 3DCADデータの約1/10の軽量化(高速化)
- DRの容易化
(干渉チェック、分解/組立、計測など)
- 組立性の評価・検討
- 各種ドキュメントの作成の容易化

開発ステップでの「手戻り」が多いと設計期間の短縮や設計品質の確保、開発費用の削減の達成は難しい。右図はモノづくりプロセスでのVPSの活用シーンです。



VPSの活用シーン

VPSを用いた組立手順書作成



各種ドキュメント作成の中でも多く用いられている組立手順書作成の効率化の概要を述べます。

組立手順書の多くは、各部品の写真を貼りつけて作成されています。これは文章だけではわかりにくく、また誤解を生みやすい手順を正確に伝えるためです。しかし、試作品を撮影するには、当然のことながら試作後となるため時期が遅くなり、作成に多大な工数が発生してしまいコストが増大します。

VPSを活用している場合は、その無駄を省くことができます。なぜなら実際の部品を用意しなくても、それぞれの部品をシミュレートしスナップショット画像を書き出すことが可能だからです。

画像データはJPEGファイル、また各組立工程でのデータはCSVファイルで出力できます。どちらもそのままMicrosoft Excelで取り扱えるファイルですので、容易に編集することが可能です。

手順書に画像を貼り付ける作業は、単純であるものの工数が必要なルーチンワークです。これを改善する方法としては「Excelマクロ」の活用が適しています。作業量によっても異なりますが50~90%の削減が可能となります。また部品一覧表に部品イメージを自動で貼り付けることで、見やすいドキュメント作成が容易になります。



手順書の例



部品リスト

富士テクノソリューションズでは、VPSに関するコンサルティング、適用支援など実施しております。お問い合わせは、PLMソリューション事業部(045-470-0035)小山・川島にて承ります。

ヘルプデスク・ユーザーサポートは定常的、 教育業務ではイベントごとに

シーメンスプロダクトライフサイクルマネジメントソフトウェアJP株式会社

技術本部 テクニカルサポート部 部長 関上真治様

Q 現在御社ではどのような業務内容をアウトソーシングサービスで利用されておりますか？また、利用頻度をお聞かせください。

A 当社製品のヘルプデスク業務、ユーザーサポート業務、教育業務でご支援いただいています。ヘルプデスク、ユーザーサポートについては定常的、教育業務ではイベントごとにご支援いただいています。

商号	シーメンスプロダクトライフサイクル マネジメントソフトウェアJP株式会社 http://www.siemens.com/plm
所在地	東京都渋谷区代々木2-2-1 小田急サザンタワー9階
設立	1963年(日本法人1987年)
従業員数	7,750名(日本法人約300名)

Q アウトソーシングサービスを利用するにあたって、社内体制や開発サイクルなどはどのように変化して行くとお考えですか？

A 今後さらに現在の業務分析を進め、コストメリットの見出せる分野でのアウトソーシングを積極的に検討していきます。これにより、社内の人材のより最適な配置に取り組みます。

Q 富士テクノソリューションズをご利用いただく決め手はなんでしょうか？

A まじめで、誠実な会社だと思います。

Q 富士テクノソリューションズとはどのような企業だと思われませんか？率直なご意見をお聞かせください。

A 大変良いと思います。特に海外からのエンジニアにはエンジニアリングスキルレベルが高いと思います。

関上様には、お忙しい中、ご協力いただきありがとうございます。

トピックス

● 技術セミナー開催 ●

当社テクニカルセンターにて第6回技術セミナーを開催いたしました。

今回は「タレットパンチプレスの騒音低減」をテーマに、産学協同研究のあり方と成功事例について神奈川工科大学教授 遠藤順一氏をお招きし、ご講演いただきました。

企業における実験・シミュレーションや産学協同によるデータ収集・解析など、メーカー在籍中の氏の経験を基に、「製品性能の追求」からさらに一步踏み込んだ、プレス機械を導入している「工場周辺への影響」まで考慮したモノづくりについてご講演いただきました。具体例を挙げての講演で、難易度の高い内容ながらも非常に分かりやすかったとの感想が多く寄せられ、有意義なセミナーとなりました。



● 富士テクノ、関東エリア再編 ●

当社では、事業の拡大に伴い、関東地域での拠点再編を行うこととなりました。東京本社を東京・横浜・大宮の3地域に分散させ更なる事業展開を図ります。また、より一層のサービス向上を目指し、営業拠点の再編も行います。



横浜オフィス開所式

新たな気持ちで従業員と一丸になり、事業発展に全力を尽くしていく所存ですので、今後ともご支援ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

変更前	変更後
営業本部 神奈川第一オフィス	分割 東日本事業部 厚木オフィス 東日本事業部 横浜オフィス
営業本部 神奈川第二オフィス	
営業本部 東京オフィス	移転 東日本事業部 東京オフィス
-	新設 東日本事業部 大宮オフィス
PLMソリューション部	移転 PLMソリューション事業部
東京ソリューションセンター	移転 横浜ソリューションセンター